

中田小学校「横浜の時間」全体計画

第1章 『横浜の時間』の編成

1. 本校の『横浜の時間』の基本的な考え方

(1) 『横浜の時間』のねらい及び「重点的課題」とのかかわり

ア 名称「中田っ子」

イ ねらい…「中田っ子」は、各教科の学びと一体となり、各教科の基礎的・基本的な知識・技能を生かすと共に、総合的な学習の時間を核として、道徳、特別活動、英語活動、国際理解教室及び教科・領域の枠を超えた横断的・総合的な学習である。したがって、この活動は、様々なところで身につけた力を使って、自分かちの身近な課題や、地球規模の課題を解決し、その解決していく活動を通して、思考力・判断力・表現力を育てることをねらいとしている。

(2) 地域や学校、子どもの実態

中田小学校の周辺は住宅街であり、昔からこの地域に住んでいるという住民も多い。中田小学校の卒業生も大勢いる。親子ともに中田小学校出身という人も多い。こういった地域の特性があるため、学校の活動に対して地域をあげて協力して下さる状況が数多く見られる。また、近くの小学校や、中学校との連携を密にはかっており、地域、学校間のつながりが強い。また、自治会のお祭りや運動会も盛大に行われている。こういった地域性もあってか、子どもたちは、大変素直で人なつっこい。歌やダンスなどの表現活動にも学年を問わず一生けん命に取り組むことができる。

(3) 『中田っ子』のねらいと基本方針

地域や学校、子ども実態と「横浜の時間」のねらいをふまえて、「中田っ子」では、『さわやか班活動』『体験学習』『幼保小中の交流』『運動会』『中田っ子発表会』などの活動を設定した。また、基本単元をもとにした活動も学年ごとに設定した。これらの活動の中で「横浜の時間」のねらいを実現していきたい。

2. 学校教育目標を具現化する『中田っ子』

『中田っ子』の実践においては、自ら主体的に活動を創っていくことが大切である。そのために、一つ一つの活動に対してそれぞれの子どもが問題意識をもって取り組んでいけるようにしていく。

中田小学校の学校教育目標

～さわやか笑顔中田っ子～

思い合いひびきあいともに生きる力を育てます。

[知] 子どもの思いや願いを大切にし、課題解決に向けて自ら取り組める子を育てます。

[徳] 互いに認め合い支え合う子を育てます。

[体] 自然に恵まれた環境を生かし、心身を鍛え自分や人の命、体を大切にすることを育てます。

[公] 地域の人々やものとのかかわりを大切にし、ともに生きる子を育てます。

[開] さまざまな社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。

まず、[知]の項目に「課題解決に向けて自ら取り組める子」とある。このような子を育てるために『中田っ子』の活動が大きな役割を担う。なぜなら、『中田っ子』の活動は、自ら課題解決に向かおうとすることなしには成立しない活動だからである。次に[公]の「かかわりを大切にする」、[開]の「柔軟に対応できる」ということに關しても、このような態度と行動がなければ課題を解決することが出来ない『中田っ子』の活動は大きな役割を担うこととなる。

第2章 本校における総合的な学習の時間の構想

1 目標

- ・学び方を身につけ、その力を使って課題を解決する力を培います。〔知〕
- ・お互いに認め合い協力して課題を解決しようとする気持ちを高めます。〔徳〕
- ・様々な人や自然との関わりの中で相手の命や自然にふれ、人の体や命、自然の命また、自分自身の命を見つめ大切にしようとする心を育てます。〔体〕
- ・自分と関わりのあるものの存在を認識し、それらに対する感謝の気持ちをもって大切にしていこうとする態度を育てます。〔公〕
- ・自分の身につけた力を社会に積極的に還元していこうとする意欲や態度を育てます〔開〕

2 育てようとする資質や能力及び態度

中学年

- ・様々な人だちとふれあう活動を通して、いろいろな考え方を受け止めたり、自分の考えを伝えようとしたりする。
- ・まちの人の様々な姿から、その人の生き方に関心を持ち、自分の成長を見つめ、自分らしさに気づく。
- ・まちの人の生活の中から「人」の知恵と努力のすばらしさを知る。
- ・外国人との交流を通して、様々な言語や文化に触れ、相手を理解しようとする。
- ・人とかかわりの中で、様々な立場や願いがあることに気づき、それを理解しようとする。
- ・動植物への働きかけを通して、その成長による変化に気づき、いのちを大切にしようとする。
- ・自然環境にふれる活動を通して、その変化やよさに気づき、自分にできることを探し、身近な生活に働きかけようとする。

高学年

- ・いろいろな人とともに活動する中で、他者の考えを尊重しながら、自分の思いや願いを表現しようとする。
- ・「もの」「人」に対する自分の考えを持ち、心身の成長を実感しながら自己有用感をもって、対象に働きかけようとする。
- ・まちや社会の文化を学ぶことを通して、「人」の知恵と努力のすばらしさを知る。
- ・外国人との交流を通して、文化や生活習慣の違いを知り、広い視野に立ったものの見方や考え方を身につけようとする。
- ・様々な立場の人とふれあう活動を通して、共に生きる社会を作るために自分の力を発揮しようとする。
- ・生態系としての動植物の存在に気づき、いのちの尊厳とその連続性に対する畏敬の念をもつ。

第3章 実践するにあたって

1 内容

(1) 課題設定の仕方

これからの社会を生きる子どもたちにとって学ぶべきことが求められ、探求的に学習することがふさわしく、学習や気づきが自己の生き方を考えることに結びついていることを教育課題として設定し、横浜の時間に扱うこととする。

(2) 学習対象

学習対象を、地域の特性や子どもたちの実態、また横浜の時間のねらいをふまえて次のように設定する。

- ・国際理解、情報、環境、福祉、健康などの横断的・総合的なもの
- ・地域や学校の行事に関わるもの
- ・クラスや学年から日々の活動の中で生まれたもの

(3) 学習事項

基本単位をもとに各学年々クラスに応じた学習事項を設定する（基本単元の内容に関しては各学年の教育カリキュラムを参照）。

学校全体での総合テーマを「まちに学びまちをつくる子どもたら」とする。それをふまえて各学年のテーマを次のように設定しこれに沿った単元にしていく。

- 1年生「中田小学校のよさから学ぼう」
- 2年生「まちとかかわって学ぼう」
- 3年生「まちの人から学ぼう」
- 4年生「まちから私たちができることを学ぼう」
- 5年生「まちの食から学ぼう」
- 6年生「よりよいまちをつくろう」

宿泊をとまなう体験学習については、テーマを「体験を通して自然・まち・自分を見つめる子どもたら」とし、それぞれの体験学習のテーマを次のように設定する。

- 上郷宿泊体験学習・・・「上郷の自然にふれる中で、あらたな横浜のよさに気づこう」
- 箱根宿泊体験学習・・・「体験を通して新しい自分に気づこう」
- 日光修学旅行・・・「先人の営みを知り、これからの自分を見つめよう」

2 評価

(1) 評価の考え方

横浜の時間の学習における評価は、子どもの学習意欲と活動内容の質を高めていくための評価でなければならない。指導と評価の一体化を図り、子どもの生き方につながる、思考力・判断力・表現力の向上を支援することを主たる目的とする。

(2) 評価の方法及び評価資料

具体的な評価方法として次の事項を挙げる。

- ・学習に対する参加態度や学習状況の観察
- ・日常の生活の様子を観察
- ・作品や成果物の製作過程
- ・活動の記録やノートからの読みとり

これらを活動内容に照らし合わせて、評価していく。